

「新たな学校づくり推進計画（素案）」保護者説明会 質疑応答集

○通学・学区に関する質問・意見

No.	質問等内容	回答
1	統合前に統合先の学校へ転校できないか。統合時に小学6年生や中学3年生になる児童生徒は、短期間で新しい環境に慣れる必要があり不安がある。	原則として居住地に応じて指定校を決めています。特別な事情がある場合は、基準に基づいて教育委員会で指定校の変更を認める制度もありますが、基本的には指定校への就学となります。
2	尾去沢小に通っているが八幡平のスポ少で活動しているため、統合のタイミングで八幡平の学校に通うことはできないのか。	現時点ではスポ少を理由とした指定校の変更は認めていません。
3	通学距離が何キロから遠距離になるのか。通学支援策はどのようなものが教えてほしい。	国の基準に基づき、自宅から学校までの距離が小学校は4km以上、中学校は6km以上を遠距離通学としており、路線バスがある地域では定期券代の全額補助、路線バスのない地域については無料でのスクールバスやスクールタクシーを運行しています。そのほかに市独自の支援として、小学校は2km以上、中学校は3km以上を準遠距離通学として、小学校1,000円、中学校2,000円を自己負担として定期券の購入補助やスクールバスの運行での通学支援策を実施しています。統合後の支援策については今後検討していきます。
4	心配するのは子どもの時間をどう確保するかということ。通学距離が長くなるほど通学に係る時間が長くなり、家での勉強の時間や睡眠時間など必要な時間を確保するのが難しくなるのではないかと。そういうところへの対応も計画に盛り込んでもらえないか。	通学距離が遠方となる場合は、スクールバスができるだけ他の地区を経由しないルートを検討するなどして通学の時間の短縮を図りたいと考えています。
5	十和田地区や八幡平地区では公共交通が縮小しており、八幡平においてはデマンド交通に切り替わっている。 地域から公共交通が無くなり、スクールバスにおいても運転手の確保が難しくなっていくのではないかと懸念している。そうなった場合にどのように対応していくのか。	現在、八幡平地区においては、朝の時間帯に路線バスを使用するのは小学生・中学生が基本となっているため、路線バスを維持するためにも地域の公共交通を活かしながらスクールバスと合わせて適切なバスルートとなるように考えていきます。運転手の確保については、公共交通でも大きな課題となっており、地域住民と連携する方法なども視野に入れながら進めていきたいと考えています。

「新たな学校づくり推進計画（素案）」保護者説明会 質疑応答集

○通学・学区に関する質問・意見

No.	質問等内容	回答
6	十和田小・中は10年使用する予定であるが、十和田小学校においては国道282号に面している関係で、学校の前の交通量が非常に多い。朝の時間帯はスクールバスが学校の敷地内に入ってくるが、最近熊が出没する関係で、保護者の車も敷地内に入り渋滞することでスクールバスが入れない状態が学校の前で頻繁に発生している。10年先を見据えるのであれば、小学校の裏手の方に階段のような設備を整備して国道103号方面からの通行手段も確保しないと厳しいのではないかと。 十和田中学校においては、降雪期に国道103号まで保護者の車が渋滞しているため、何かしらの対応策が必要ではないかと。	十和田小学校について、大湯方面の国道からのアクセスについては状況を確認してまいります。 十和田中学校の冬期の送迎については、保護者から協力をいただきながら一方通行の対応をしていますが、学校等から状況を聞き取りできる対応を検討していきます。
7	小学校が1校になった場合、通学時間は一番遠いところは何時に出て何時に帰ることになるのか教えてほしい。	候補地の選定はこれからになりますが、仮に令和14年度の八幡平小学校と花輪小学校が統合した場合、八幡平から来る一番遠い児童については、30分～40分程度の通学時間を想定しており、その際は、なるべく各地区を経由しないで時間を短縮し、午前7時前に出るような運行にならないようにしたいと考えています。
8	中学校も新設されることになるのか。現在、自分の子どもを花輪中学校に車で送迎しているが、坂を下りてきて道路を出るのが危ないと感じるため、もし全中学校が花輪中学校に統合されとなった場合はより危なくなるため不安に思った。	具体的には計画が決定してからとなりますが、現時点では中学校についても新設することを考えています。

「新たな学校づくり推進計画（素案）」保護者説明会 質疑応答集

○再編案・進め方に関する質問・意見

No.	質問等内容	回答
1	十和田市民センターに分校規模で小規模な学校が残せないか。複式学級の問題は、文科省の基準で決まっているのかもしれないが、将来を担う子どもにとって、現在の横並びのように特色がない形ですべての地域が同じ教育を施していくというのがこれから変わってくるのではないか。例えば複式学級でも地域の方の協力を得ることで、複式学級のメリットが出せることもあるのではないか。合わせて十和田市民センターの老朽化も進んでいる。建て替える際に学校機能も持たせることで、体育館と図書館は既存のものを転用し、建築費用を抑えて公共施設の適正化も図れると思う。	昨年から学校再編の進め方について慎重に検討してきており、その中で一番基礎となっているのが地区別の出生数です。十和田地区で見ると、令和6年度に21人、令和7年度に17人となっています。案の一つとして十和田地区に1校というシミュレーションもしましたが、令和6年度に生まれた方が小学校に入学する令和13年度には、1学級の規模になり、その後も減少していくことが想定されるため、学校を残したとしても1学級10人を下回ることとなります。子どもたちにとっては、集団教育である程度クラス替え等も行うことができ、切磋琢磨して学校活動を行える環境が望ましいと考えているため、小学校1校、中学校1校とする案とさせていただきました。これから様々な意見を伺い、計画について慎重に検討していきます。
2	十和田小、大湯小学校の合併により自分の子どものクラスが35人になってしまうのだがそれでも1クラスなのか	国の基準により、現在は1学年36人以上で2クラスになるため35人は1クラスとなります。
3	小坂小・中学校との統合は考えているのか。	鹿角市内のみで検討した計画であり、現状では小坂町との統合は考えていません。
4	令和19年には小学校1校、中学校1校もしくは義務教育学校と記載があるが、義務教育学校にするかどうかの検討はいつごろ行うのか。	今年度計画を策定することとしており、計画期間の10年間で小中1校ずつまたは義務教育学校にするかを検討していきます。
5	新しい学校をどうしていくのかを決める際には、改めて市民の方から意見を聞く場を設けるのか。それとも行政が決定するのか。	決め方についてはまだ決まっていますが、教育委員会や学校関係者、場合によっては保護者から意見を伺いながら、こういった形がよいか決めていきたいと考えています。
6	10年間で計画がふらふらしてしまうと、施設の整備計画も不安定になると思う。新たな施設を整備する際の資金も市民がお支払いしている中から出るので、しっかりと安定した形でできるだけ早く計画を決定してもらった方が市民も安心する。	今年度計画が策定できれば、来年度以降に最終的な学校がどれくらいの規模となるのか、どのくらいの敷地が必要となるかなどを検討していきます。そのうえで、適正な建設場所を検討するなど計画的に整備を進めていき、できるだけ早い段階で将来の姿が見えるようにしていきたいと考えています。

「新たな学校づくり推進計画（素案）」保護者説明会 質疑応答集

○再編案・進め方に関する質問・意見

No.	質問等内容	回答
7	今回の素案を最終決定するのが最短でいつになるか知りたい。子どもたちも統合時期がいつになるのか早めに知りたいのではないか。	今後の保護者説明会や地域説明会の意見を基に計画案を作成し、議会への説明やパブリックコメントを経て3月までに計画を策定する予定としています。統合までの期間は最低でも2年間は必要と考えており、必要な準備期間を設けて準備を進めていきます。
8	尾去沢中学校と花輪中学校が先に統合になる経緯を知りたい。尾去沢中学校と八幡平中学校はこういった将来を見据えて交流を進めてきたと思うが、尾去沢中学校と八幡平中学校の統合をするのではなく花輪中学校と尾去沢中学校の統合を先にする理由の説明をお願いします。	統合の一つの基準として過少規模の学校の解消を図りたいと考えており、現状、尾去沢小学校では複式学級が生じているほか、令和11年度には尾去沢中学校でも複式学級が生じる見込みとなっています。そのため、まずは過少規模の解消を図るため、尾去沢と花輪、その後八幡平との統合を予定しています。学校は地域の中核的な位置づけという意味合いもあるため、複式学級が発生するまでの状況も考慮し、八幡平については令和14年度に統合ということで案をまとめています。
9	計画は鹿角市の財政事情等を考慮しているのか。それとも生徒数や教育環境だけの視点で作成したのか。	まずは子どもたちが教育を受ける上で望ましい環境となることを目指しているものでありますが、10校中7校が建設から40年経過しており、これをすべて建て替えるとすれば相当なコストがかかることも考慮して、最終的には小学校1校、中学校1校、または義務教育学校1校とするようにコスト面も考慮した計画案としています。また、学校の整備は市の財源のみで行うのではなく、国からの補助金などを活用して市の財政に負担をかけないように計画的に進めていきます。
10	令和11年度に尾去沢小学校と花輪小学校に、八幡平中学校と花輪中学校統合されるが、八幡平小学校や八幡平中学校が同じタイミングで統合しない理由はなにか。	八幡平小学校は令和11年度までに複式学級が生じないことや、今まで各地区に小学校は1校としてきたことも考慮して、できるだけ地域に1校残すことも考慮して統合を令和14年度としています。地域からもっと早い方がよいという意見があれば再度検討していきます。
11	現状子どもたちが、こういったところと交流し勉強や部活をしているかなどを考えてほしい。現場を見られていると思うが、大人の意見だけではなくて子どもの意見も反映してもらいたい。	子どもたちの環境を一番に考えて計画を作成しましたが、十分に至らない部分もあると思うため、改めて子どもたちの状況や意見について確認しながら最終的な計画を作成していきます。

「新たな学校づくり推進計画（素案）」保護者説明会 質疑応答集

○再編案・進め方に関する質問・意見

No.	質問等内容	回答
12	学校が統合することによって、基準で2クラスになるかもしれないが、人数が少ない方が先生たちもきめ細かい指導ができると思うが柔軟に対応できるのか。	1クラスの人数や教職員の配置については国の規定で決まっています。教職員の配置については市教委だけでは決められないため、県教委へ相談していきます。
13	学校が統合すると先生も勤務場所が変わると思うが、教職員の意見等は計画に反映されているのか。	素案を作る段階では教職員の意見は伺っていません。学校の設置については市が設置者となるため、まずは市で人口シミュレーションを行い計画について取りまとめています。
14	統合前の花輪小学校との交流について、児童・生徒のみが対象なのか。それとも保護者も参加するのか。	統合案が正式に決定した後、具体的な交流内容を検討します。現時点では保護者の交流は想定していませんでしたが、意見を踏まえ、今後検討していきます。
15	統合したら制服やジャージはどうなるのか。	この案が正式に決まり次第、再編に向けた協議会を組織し、その中で制服やジャージ、学校名、校歌などについて話し合っていくことになります。統合した数年間は別々のジャージになる可能性があります。前もって準備できる学年については統一したジャージにすることが望ましいと考えています。
16	将来的に、児童生徒の人数が少なくなれば修学旅行は鹿角市全体で行うことになるのか。	基本的には、それぞれの学校で修学旅行に行っています。学校間での話し合いで一緒に行くことは可能であり、統合を見据えて話が出てきたときには実現が可能と考えています。
17	十和田小中学校は洪水浸水想定区域に指定されているがそれでも大湯小学校から十和田小学校へ統合となるのか。	気象情報の確認や避難できる体制を作ることが必要と考えており、場合によっては休校措置も検討します。そのほか、児童生徒数の人数の状況や、大湯小学校の生徒が卒業すれば十和田中学校に進学することから、現在は大湯小学校から十和田小学校に統合するということで考えています。将来的には、段階的に統合していきながら最適な環境となるような場所に小学校1校、中学校1校に集約して行きたいと考えています。

「新たな学校づくり推進計画（素案）」保護者説明会 質疑応答集

○児童クラブに関する質問・意見

No.	質問等内容	回答
1	花輪小学校に統合後、尾去沢地区の児童はまちなか児童クラブを利用するのか。	まちなか児童クラブと花輪児童クラブがあり、どちらの児童クラブを利用するかは決定しておらず、施設状況や学校再編のスケジュールを踏まえながら今後検討していきます。
2	大湯小学校と十和田小学校が統合となると人数が増えると思うが、十和田小学校の児童クラブにみんな利用できるのか、それとも別の場所の児童クラブの利用も出てくるのか教えてほしい。	令和8年度の十和田児童クラブは130人の登録があり令和12年度の統合後の十和田児童クラブにおける登録人数の想定は122人としており、現在の児童クラブの利用で問題ないと考えています。
3	市内全小学校を統合後、夏休みなどの長期休暇中に児童クラブを利用する場合、スクールバスで送迎してもらえるのか。	教育委員会としては、長期休暇中にスクールバスを運行することはできませんが、保護者による送迎が難しいという意見が多く寄せられた場合は、市内全小学校の統合前にニーズを把握しながら対応を検討します。現在の児童クラブの登録率は約半数ですが、スポーツ少年団などの活動状況によっても児童クラブの利用ニーズは変わると考えているため、状況を見極める時間をいただきたいと思います。
4	現在、柴平小学校の児童クラブは旧平元小学校内にあるが、学校を新設する場合は、校舎内に児童クラブを作ってほしい。熊の出没が多くなっている中で、授業が終わってから学校を出ずに児童クラブに行けるとすることはとても安心感がある。	より学校に近い場所での開設を目指しているところであり、統合校を建設する際は、学校内に児童クラブを開設できるように進めていきたいと考えています。令和19年度の統合前にも、柴平小学校で放課後児童クラブのスペースを確保できるようであれば、早めに校舎内に設置できるように進めたいと考えています。
5	児童クラブの登録児童数について、現在の学校から家が近いため登録していない家庭もいると思うが、統合して1校になっても利用率は変わらずに推移すると想定しているのか。児童クラブ1箇所ですべて300人を受け入れ可能なのか。	学校が近くにないことで児童クラブを利用する人が増えてくることも考えられますが、スポ少へ参加する児童がいることやスクールバスの利用等の状況を精査しながら計画に反映させていきます。統合校の児童の人数が令和19年度に381名と推計しており、現状の利用率の5割～6割で推移すると、約190名～200名弱程度と推計されます。それに加えスポ少の動きがどうなっていくかなどを見ながら計画を精査する必要があるため、統合前までに児童クラブに対する保護者のニーズを確認していきたいと考えています。

「新たな学校づくり推進計画（素案）」保護者説明会 質疑応答集

○地域とのつながりや空き校舎の利活用に関する質問・意見

No.	質問等内容	回答
1	尾去沢地区は運動会や祭りを学校と地域が連携し行っているが、学校が地区外になることで、地域とのつながりが薄くなることを懸念している。地域の特色ある活動についてどのように考えているか。	統合後も地域との連携を維持・充実できるよう統合を進める中で取り組みを検討していきます。児童生徒と地域が連携し、活動を展開していけるように学校にも配慮してもらいたいと考えています。
2	最終的に1校に統合したときに子どもたちがどのように地域のことを学んでいくかが気になっている。さらに花輪ばやしや毛馬内盆踊り等の地域行事への関わり方について、必ずしも全員が参加するわけではないかもしれないが、1校になった場合に学校としてどのようにバランスを取っていくのか。縦割りにして地域で子どもたちを分けていくのかなど今の段階で案があれば教えていただきたい。 また、児童クラブ等の地域ごとの枠組みを活用して地域について学ぶ機会を設けても良いのではないか。	地域との行事の関わり方については、学校が統合したとしてもそれぞれの地域行事に参加できるように配慮しつつ、今まで以上に地域と密接に関われるようにすることが新しい学校での重要な要素だと考えています。統合することで居住地以外の地域行事に関わる機会が作りやすくなることも考えられるので、地元の行事や市民とのふれあいを大切にできるよう考えていきます。児童クラブについては、統合した場合はその学校に児童クラブを設置する方向で提案していますが、何らかの形で地域のことを学ぶ機会を確保していく必要があると考えており、教育委員会と連携しながら対応していきます。
3	6年後に八幡平小中学校は花輪小中学校へ統合される予定だが、特に八幡平中学校は建設からまだ間もない。空き校舎の活用方法は誰がどのように決めるのか。現時点で何か決まっていることはあるか。	八幡平中学校は比較的新しい施設であり、今後も十分活用できる施設であると考えています。計画が決まった後に、市の担当部署において、地域の意見も伺いながら、地域での活用方法や民間企業への貸付など空き校舎の有効活用を検討していきます。再編の見通しが立った段階で、具体的な活用方法について早めに検討を進めていきたいと考えています。
4	校舎を解体するかどうかは市が判断するのか。	施設の老朽化の状況などを見ながら、最終判断は市が行います。施設の活用方法について、ご要望があればお寄せください。

「新たな学校づくり推進計画（素案）」保護者説明会 質疑応答集

○部活動・その他に関する質問・意見

No.	質問等内容	回答
1	資料P.11の「クラブ活動の活性化」の「クラブ活動」とは、部活動が地域移行が進む中で、どのような意味で記載されているのか。	将来的には、中学校の部活動は地域のクラブが担う方向で進められており、現在は休日の活動を中心に実験的な取り組みを進めています。現状では、生徒数の減少により、合同チームでの活動やチーム編成ができないなどの制約が生じており、学校再編により適正な学校規模を確保することで、学校単位で制限なく部活動を実施できるようクラブ活動の活性化を図っていきたいという意味で記載しています。
2	小学校では地域移行はどのくらい進んでいるのか。	陸上競技等の一部を除き、スポーツ活動は概ね地域のスポーツ少年団へ移行しています。
3	資料中の「クラブ活動」は中学校について記載しているという解釈でよいのか。	小学校のスポーツ少年団も学校単独での構成は難しく、広域化が進んでいる状況だが、主に中学校を想定し記載しています。
4	統合後のスポーツ少年団活動はどうなるのか。	今後の方向性としては、地域のスポーツ少年団で活動してもらうことになると想定しています。スクールバンド部については、（課題となってくるが）学校と相談しながら、地域の方をお願いできるのか今後検討していく必要がありますが、将来的には文化部も地域移行でお願いしたいと考えています。
5	熊の出没が頻発しているため、保護者送迎の機会が多くなっていると感じるが、保護者が仕事の休みをとれないことで迎えに行けないことが発生している。学校や児童クラブでの預かり機能についても計画に反映させてほしい。	熊対策での保護者が迎えにくるまでの見守りについて、現状でも学校と連携して対応しているため、今後の計画づくりにおいても重要な項目として位置付けていきます。
6	十和田中学校の野球場について、雨が降ると水はけが悪く使えない状況であり、旧十和田高校の野球場は使用されないまま残っている。今後10年使用すると考えた場合にそのような状況の改善について前向きに検討してもらえるのか、統合が決まっているため対応しないのかを教えてください。	十和田中学校の野球場の水はけが悪く練習に支障をきたしていることは承知しており、代替案の検討を進めています。